



**わんこがっば
ニュースば**

岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みがけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651

コロナ禍の学童保育を支援

県連協第52回定期総会

岩手県学童保育連絡協議会の第52回定期総会は、コロナウイルス感染防止のため書面で開催されました。書面による開催は昨年に続き2回目。

20年度活動報告では、コロナウイルス禍で、県連協が外部団体や民間企業の支援窓口となったことや、県内の学童保育クラブの状況把握や支援、情報発信などを行ったことが報告されました。

21年度の活動方針では、コロナウイルス対応を重点課題として挙げ、指導員の支援や、行政への働きかけを行うこと掲げられました。子どもたちと保護者の生活を支える学童保育クラブがコロナウイルス禍にあっても、その役割を果たせる

よう、県連協は県内の学童保育クラブを支援する活動を展開していきます。

総会の議事は書面評決で行われ20年度活動報告、決算報告を承認。21年度活動方針案と予算案は採択されました。また、7月18日開催の役員会において、千田広幸氏が会長に選任されました。

新役員は次のとおり。

- 会長** 千田 広幸 (滝沢)
- 副会長** 阿部 勝 (気仙)
- 松本由加利 (盛岡)
- 本宮 信也 (花巻)
- 酒井 浩文 (北上)
- 小原 裕樹 (久慈)
- 事務局次長** 門田 弘之 (滝沢)

事務局次長 橋本 有紀 (盛岡)

- 会計** 嘉村 祐之 (盛岡)
- 事務局員** 榎見 浩 (盛岡)
- 中村由可子 (盛岡)
- 永洞 麻衣 (盛岡)
- 村上 麻希 (滝沢)
- 武田 恵美 (滝沢)
- 小松 紀幸 (花巻)
- 古川 晴一 (花巻)
- 武藤 一弘 (北上)
- 小納恵理子 (北上)
- 千田久美子 (北上)
- 関畑 千春 (久慈)
- 大平ルミ子 (久慈)
- 志田 俊一 (気仙)
- 岡澤 紹子 (気仙)
- 比内沙耶火 (気仙)

- 会計監査** 高橋 真琴 (盛岡)
- 去石 靖子 (滝沢)

一人ひとりの声を届けよう

全国連協は、全国どこでも誰もが安心して通える学童保育クラブが整備されることを目指し、署名活動を行っています。昨年4月の緊急

事態宣言下で国は学童保育を「原則開所」としました。これにより学童保育は社会生活を維持するのに重要な施設であるという認識

署名の取り組みを

が広まりました。一方で全国には施設の規模や集団の規模が基準以下のクラブがまだ多くあり、岩手県も例外ではありません。感染を

防止し、子どもたちが安心して生活できる環境の整備は喫緊の課題です。県連協では、加盟クラブに署名の協力を要請しています。多くの署名が届けられるよう、取り組みをお願いします。

大切な居場所となるために



画面を通して熱心に耳を傾ける保護者
＝盛岡市・くるみ子ども会

県連協は保護者リモート研修会を6月27日、7月10日の2日間、オンラインで開催。各地域からコロナ禍で保護者会の開催が困難になっていると、声が寄せられていることから、学童保育の生命線とも言える保護者会の役割や魅力を知ってもらおうと企画されました。2日間で4講座が行われ、県内学童保育の保護者、指導員ら約300人が参加しました。7月10日に行われた「より

保護者リモート研修会

よりよい保護者会を目指して

よい保護者会・連協づくりを目指して」の講座には84人が参加。阿部勝県連協副会長を講師に、保護者会と連協の役割について学びました。阿部副会長は「子どもたちは安定した生活環境で自由に自分を表現することによって、自己を確立していく」と述べ、「学童保育が子どもたちにとって、ありのままの自分をだせる大切な居場所になるためには保護者の関わりが大切」と保護者会の意義を語りました。役員の負担が大きくなり手ががないなどの課題について、「保護者の仕事の状況や家庭事情は様々。今できる人ができる範囲で協力しあうことが大切」と助言しました。

続いて、盛岡市のくるみ子ども会、北上市の成田学童保育所、花巻市の矢沢学童クラブが、事例報告を行いました。保護者の学童保育への思いや、運営課題への取り組み、より多くの保護者に楽しく参画してもらう工夫などが紹介され、参加者は熱心に聞き入りました。